

崔書勉先生と私『人たらしの崔先生』

権 鎔大（NPO法人日韓祭り協会理事兼事務局長）

私にとっての『崔書勉』はマスコミに出てくる日韓のフィクサーというイメージで、必ずしも明るく清潔な感じではありませんでした。

二〇〇二年に再度日本勤務を命じられ東京に赴任して大森さんや落合さんらとお付き合いするようになって、先生とお会いしたと記憶しています。本来なら韓国人の私が日本の方に紹介するのが自然なのですが、当初その逆なので何か居心地が悪く感じました。最初は御覧の如く強面で近寄りたいたい印象でしたが、先生のフランクで飾らない性格のお陰ですぐ打ち解け今日に至っています。

私と先生とのここ数年のかかわりは一本の電話から始まります。先生が東京にいらつしやり

「今着いたよ!」「いつまでいらつしやるのですか?」

「〇〇日まで」「夜はいつ空いていますか?」「〇〇日」

早速先生と親しくしている皆さんに電話をして日程を調整し、楽しい晩餐会を開く準備にかかります。大体が急な連絡でな

かなか日にちが決まりません。

もつと前もって連絡してくれば、楽なのにとありますが、事前に連絡しないのはみんなに負担をかけない為の先生の配慮であることに気付いてからは、限られた時間内でいかに多くの仲間が集える日程を組むか、くつろいだ雰囲気の中で楽しく食事をして頂けるようにするのが腕の見せ所になっています。思うように集まらないときは綺麗どころ（？）をお呼びしてアクセントをつけることもあります。

この集いは常時八名から十二名で今も続いています。また韓国に行くときは先生主催の晩餐会を旅程に組み込むのが習わしで、先生は奥方に贈り物をする細やかな気配りを欠かせません。それだけでなく崔先生のすごいところはどんなに身分が低くても年が若くても相手を一人の人格として認めて接することです。定宿にしている讃岐会館の人々はもとより、図書館の事務員、食堂の店員や高級官僚に至るまで親しくし先生のファンにしてしまうのには恐れ入ります。

時には韓国の大統領、日本の高貴な方にお会いしても臆することなく接していらっしゃる先生が「私たち下々にまで気を使ってくくださるなんて…」

と思わせるその気さくさに頭が下がると同時に、彼らから情報、知識、ヒント、サービスを得るのですから流石と言わざるを得ません。

私もそんな先生の虜になり先生の用事は嬉々とこなしており、常に最優先して迅速に行っています。そして一つでも先生のあの大きなお腹の中に詰まっている知識をすくい上げ、また日韓における先生の品格ある対処法を学び取るよう心がけていますが、頭が悪いものと思うように学べておりません。ですから先生は私の為に一〇年後の一〇〇歳まで生きて頂かないと困り

ます。

先生！どうか健康で長生きして下さい！

先生！「権君！お前は一〇〇歳まで生きろといったけどもうとつくに過ぎたよ！」と高笑いする愛嬌のあるお顔を末永く拝見させてください。

P.S. 最近崔先生のインタビュー記事が韓国の権威ある雑誌に載りました。『月刊朝鮮』二月号で先生は昨今の日韓関係を憂い韓国人に歴史を紐解き、理解を深めるよう話されました。日韓関係は「唇亡齒寒」の関係だとおっしゃり「親日派」を排除してはいけないと韓国で最も尊敬されている金九先生の言葉を引用しながら、韓国人を啓導しています。

又天皇陛下や岸首相らの韓国との縁を通じて両国のつながりを紐解き、仲良くすべきだと呼びかけています。記事の内容から韓国人に罵倒されそうな発言が随所に見受けられますが、先生は例え非難されてもこれだけは両国の為と言っておくべきだと意図的にお話をなされたような個所が見受けられました。両国の関係を憂うものとして頭が下がる思いです。



『昔の美女(?)に囲まれ
ご満悦の崔先生
二〇一六年一〇月韓国にて』
〈女性がまとっているのは先生から
プレゼントされたスカーフ〉

